

露地野菜の冠水は、結球初期までなら回復可能 事後対策の尿素かん注で収量回復

【背景・目的・成果】近年、大雨により、排水能力の低い圃場で冠水被害を受ける頻度が高まっています。そこで、露地野菜主要品目であるレタス、キャベツについて、冠水の時期・時間の違いと被害の関係を明らかにしました。また、冠水の事後対策として、尿素のかん注を行うことで、被害を軽減する効果が期待できます。

冠水時期・時間と被害の関係

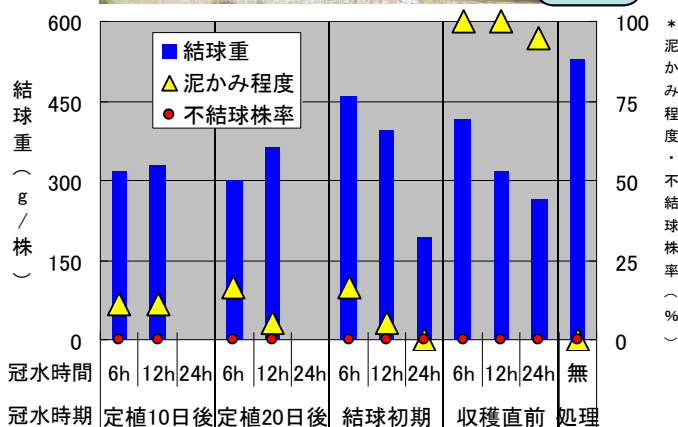


図1 レタスにおける冠水時期・時間と被害の関係

*泥かみ程度 指数0:なし 1:軽(1~2枚) 2:中(3~5枚) 3:重(5枚以上)
品種:「ハミングチャウ」、定植:2012年9月14日

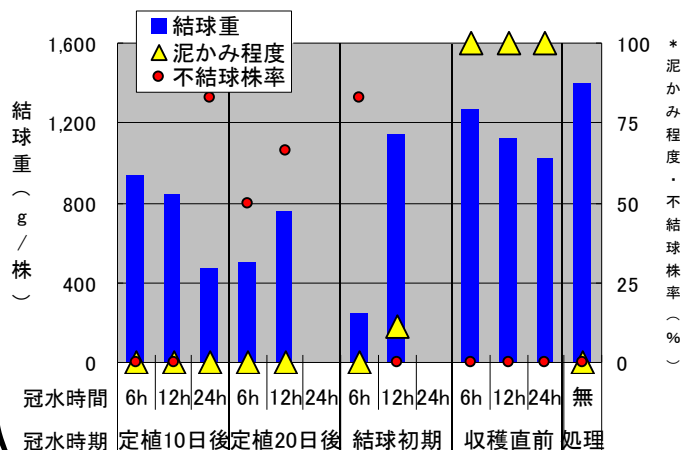


図2 キャベツにおける冠水時期・時間と被害の関係

*図1と同様、品種:「松波」、定植:2012年9月14日

事後対策の効果



1)品種:「松波」 2)播種:2013年8月6日 3)定植:9月13日
4)収穫:2014年1月7日 5)畝幅:135cm、株間35cm(2条植え)
6)冠水処理:定植26日後および、33日後の2回、株元付近まで水位を上昇させ、6時間畝を冠水させた後、落水し、その翌日に冠水+尿素かん注区のみ、尿素の50倍液(10a当たり尿素10kgを水500リットルで希釈)を動噴でかん注した。

【技術の活用】

- 1 結球初期までなら球内への泥かみもなく、6時間までの冠水であれば、被害は軽く、事後対策により収量の回復が期待できます。
- 2 事後対策は、尿素の50倍液を10a当たり500リットルかん注する方法が効果的です。